

第13回 横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録	
議題	1 横浜市景観ビジョンの改定について（審議）
日時	平成29年1月27日（金） 午前10時から12時まで
開催場所	横浜市開港記念会館 9号室
出席者（敬称略）	委員：西村幸夫（部会長）、加藤仁美、国吉直行、佐々木葉、鈴木智恵子、中津秀之 書記：綱河功（都市整備局都市デザイン室長）、飯島悦郎（都市整備局景観調整課長） 説明者：議題1：小野田哲郎（都市整備局都市デザイン室担当職員）
欠席者（敬称略）	委員：清水靖枝 書記：小池政則（都市整備局企画部長） 額田樹子（都市整備局地域まちづくり部長）
開催形態	公開（傍聴者1名、記者0名）
決定事項	議題1：本日の意見を踏まえ、引き続き検討を進めること。
議 事	<p>横浜市景観ビジョンの改定について（審議）</p> <p>資料1について、市から説明を行った。</p> <p>○西村部会長 ありがとうございます。横浜の景観に関する市民アンケートは、今回は報告ということで、議論としては景観ビジョンに終始したいと思います。それでは、全体として何かコメントや全体として感じるところから言っていただいて、あとは少し1章、2章という感じで進めていきたいと思います。</p> <p>○中津委員 製本時の大きさについては。</p> <p>○綱河書記 最終的にはA4の冊子です。見開きにしてA3、1ページで表現するところもあると思います。</p> <p>○西村部会長 都市デザインビジョンはデジタルデータのダウンロードがメインとして、冊子にしたらお金がかかる形ですが、そういう形なのですか。</p> <p>○綱河書記 そこはまだ決めておりませんが、最終的にはA4判の冊子が最終の判型として作業しております。</p> <p>○西村部会長 見開きの部分のデザインはどうでしょう。</p> <p>○中津委員 断面図をどう冊子にするか気になった。</p> <p>○綱河書記 例えば折り込みとか、広げるとA3で見られるとか、そのような仕立てはあるかと思います。</p> <p>○説明者 印刷のコストが見合えば、両面見開きで一連に見られるようにしたいと思っています。</p> <p>○西村部会長 資料最後のページの地域分類ですが、これは7ページにある図の根拠となっているもので、そこに関して少し議論を欲しいと思いますが、まず資料集の最後のページの左側のフローチャートみたいなのはビジョンの中には入っていないのですね。</p> <p>○説明者 ビジョン本編ではなくて、資料編に記載しておきたいと考えております。</p> <p>○西村部会長 なるほど。それではイントロダクションと1章のあたりで何かコメントがあれば。</p> <p>○佐々木委員 全体的なことになるのかもしれませんが、この横浜の景観に関する市民アンケートの結果について、設問の1で、「魅力を感じる場所を思いつかない」という人が、順番で言うと8位に上がっています。前回はかなり下のほうです。次の「問題だと感じることは何ですか」で、「特に感じない」というのが4位です。これは、私は実はとても大きなことだと思っています。問題を感じないという人は、パーフェクトにできていると思っている人ではおそらくなく、無関心層の増大がこのアンケート結果に出ているように思いました。この景観ビジョンに大きなエネルギーを注いで完成度を上げていくことは大事だと思いますが、一方で、どんなにすばらしいビジョンができて、この無関心層に対してなかなか響かない。社会の格差の問題から、景観どころではなくて日々の生活が大変な人たちが横浜にだんだん増えているのだとしたら、それも関係しているのかもしれない。この社会的な問題と、前回の議事録にあるエネルギーの循環の問題や、大災害が起きて町やエリアを再建するときなどに、このビジョンが果たす役割が気になりました。</p> <p>○西村部会長 それは全体のフレームみたいな話ですよ。</p> <p>○佐々木委員 はい。</p> <p>○西村部会長 いかがですか。</p>

○飯島書記 アンケートの件ですが、実はアンケートの回収方式が10年前と違っています。10年前は、郵送で無作為抽出1000名、回答されたのが255人です。だから恐らく興味のない人はそもそも回答していないと思います。今回は電子アンケートでモニター登録している1000名から100%返ってきていますので、恐らくこういう数字になっているのではないかなと思います。

○佐々木委員 回収率は、前はもっと悪かったのですか。

○飯島書記 前は25.5%です。

○西村部会長 今回は、アンケートをきちんと回答する人がモニターとして登録されている人ということですか。

○飯島書記 そうです。

○佐々木委員 なるほど。

○西村部会長 でも、それぐらい関心が高い人ということになる。

○綱河書記 回収率が100%というのは回収数が1000人になるまで続けるということなので、声をかけた総数はわかりません。

○西村部会長 なるほど。回収率100%は普通あり得ないですからね。

○綱河書記 そういう意味で100%の数字は、一般的なアンケートの回収率とは違うと思います。

○中津委員 前回と回収のやり方を変えたのには何か理由があるのですか。

○綱河書記 当時はこういう電子アンケートの方法がなかったことと、比較的短期間に満遍なくサンプルがとれるためです。前は南部方面から回答があまり寄せられなかったため、今回もそのような可能性がありました。

○中津委員 重要なデータなのに。前回と比較できないのはもったいないです。

○綱河書記 そうですね。単純な比較ではないですが、関心があるところの割合は10年前と全く同じと見られる項目もありますし、少し変わってきたなという部分もあります。その辺は参考にはできるかなと思っています。

○西村部会長 無関心層に対してどうするかという話がありますね。ただ、無関心層が20%以下というのは、ほかの自治体で同様のアンケートをとることを考えたらとても少ないように思われます。

○中津委員 前は1%ですね。255人中3人です。

○西村部会長 それも少ないですね。

○綱河書記 ただ、関心もないのにわざわざ書いて郵送で返す方は少ない。

○西村部会長 そうですよ。そういう人はそもそも返事もしないと。ネットで返事をするのと手間が違いますからね。

○国吉委員 この景観ビジョンを打ち出すときに、景観づくりをだれがつくっていくのかというスタンスがよく見えない。だから、行政はこのように進めていきますと言うのか、専門家の人たちがやるときはこうしたほうがいいですよと言っているのか、住民なのか、その辺がよくわからない。通常、ビジョンというと行政のスタンスを見せるわけですね。今回の改定では行政は、市民と一緒につくっていくことを今後メインにしますと。そのプロセスについても一応サンプルとしては書きましたというのであればいいのだけどわかりにくい。例えば地域のキーパーソンを探すと書いてありましたが、そうすると地元のキーパーソンが例示部分を参考にする対象ではない。このビジョンの受け手はだれで、これをどのように運用するためにつくっているのかというのが、ちょっと見えないところがあるかなと思います。

○西村部会長 どうですか。基本的な問題だと思いますが。

○綱河書記 基本的には、対象はもちろん市民・行政・事業者になるのですが、大きくは、最初の第1章のところは対象を限定せずに皆さんで景観づくりについて理解をしていただきたいので、特に定めておりません。第2章のところも方向性を示しているということなので、これも特に行政や市民ということの限定はしておりません。第3章については、これはもうはっきりと行政の取組姿勢というところで位置づけておりまして、実践編のところは市民一般ないしは事業者の方に使っていただくという想定で、基本的にはそういう使い方をしてもらおうと思って構成しています。

○中津委員 まずその是非を考えたほうがいいですよ。これでは、前から順番に読んでいけば最後のほうでそうだったのかと3章になって初めて気づきます。順番をかえるのではなくて、1章のほうに何かそういうガイダンスみたいなものがあつたほうがいいかなと、前から順番に読んでそういう気がしました。

○国吉委員 例えばp30の景観づくりの流れと取組の例で、「地域目線で見ると」、「キーパーソンを探す」と書いてありますよね。これはだれに向けて言っているのか。地域の人に地域目線というの何か変だと思

いますので、同じ表現でももう少し工夫したほうがいいかなという感じがしました。

○綱河書記 はい。ここはまだ国吉委員が指摘された視点ではチェックし切れていないと私も思いますので、そこはだれが使うのか、その人の立場だったらどうかという視点を持って、実践編を整理をしていきます。

○西村部会長 ただ、私も同じような感想があって、例えば住民団体で何かやろうというぐらいの、かなり積極的な意志を持っている人だったらわかるけど、これから関心を持ってくださいねという人に言うにはすごくアドバンストですよ。だから読者はだれかというところが、ものによって少しずつ違っているような感じがしています。前のほうはもう少しエレメンタリーな感じですよ。その意味で一つずつ違うのかなという感じがしてしまうので、その辺の整理が必要かなという感じも確かにしますね。

○国吉委員 いろいろなアプローチがあっていいので、その辺のいろいろなスタンス、立場の人が使う場合の使い方、こういう場合はこういうプロセスとか、何かそういうのがあるとよりわかりやすいと思います。

○西村部会長 そうですね。中津先生が言ったみたいに、頭のところでちゃんと整理してあるとか何かすれぱうまくいくのかもかもしれませんね。

○中津委員 具体的には、28ページにすごく具体的な作業手順が書いてあるじゃないですか。このページのエッセンスみたいなものが6ページのところにもう少しわかりやすく図形化されていれば、「景観ビジョンとは」とか、「景観づくりのとらえ方」とか、その次の「景観づくりの姿勢」とか、「地域ごとの景観の特徴」とかということの理由や、全体の中の位置づけがポンと理解しやすいと思うのです。この28ページのプロセスが何となくわかっていないと、何のためにやっているのかというのがわかりにくい。もう一つは、横浜都市デザインビジョンとの関係や、すみ分けが、すごく難しいですよ。僕らでもちょっと聞かれたら100点満点の答えができない。だからそれも含めた全体のマップみたいなものを入れて、それからこの文言に入っていくほうがいいという気がします。

○西村部会長 都市デザインビジョンとの仕分けは事務局的にはどのように説明されるのですか。

○綱河書記 都市デザインビジョンというのは、この景観づくりも包含しているというふうに考えております。

○佐々木委員 都市デザインビジョンのほうが大きいのでしょうか。

○綱河書記 はい。加えて言えば、幾つか単語とか、景観づくりで横浜を豊かにしていく、豊かな風景をつくるとかという、都市デザインビジョンで使ってきた単語を意図的にこちらにもリンクをさせて、空間・営み・感性という着目点で景観もとらえていきたいと思いますとして、意図的にダブらせて書いているところがあります。ですから、都市デザインビジョンで書いた都市のとらえ方やその考えを下敷きにして景観もそういう切り口でつくり、この中で具体的に景観づくりの行政の取組方針とか地域ごとの景観を目指して書き込んでいくものです。その部分については、都市デザインビジョンとは考え方の根っこを一緒にしながら、中身についてはすみ分けているつもりでつくっています。

○佐々木委員 どういうすみ分け方なのですか。

○綱河書記 この景観ビジョン自体は、横浜市の景観づくりに関する、これが例えば景観計画をどこかでつくとか、景観に関する何か方針を立てるとか、事業をするとかというようにときに参照していくものです。事業計画の大もとの方針になるといういわゆる行政計画の部分です。都市デザインビジョンは理念などを示したもので、これは特に位置づけというのはないものであり、都市デザインの考え方をまとめたものと思っております。

○中津委員 だからそれは、文言で説明すると、皆さんわかるのですが、それをダイアグラムで簡潔にまとめられないような差異であれば、多分市民には伝わらないです。文言で今みたいに200文字ぐらい書いたら説明できる交通整理はちゃんとできているのでしょうか、多分それは読まれない。2冊ある意味がわからないもったいないですよ。だから、概念的にはダイアグラム、絵でぼんと脳の右側に入るような説明の仕方は、どこかに入れてもらったほうがいいなと思います。

○西村部会長 聞いていて何か説明と違うような印象を持ったのですが、これは市民に対して景観づくりをやってくださいと呼びかけている感じがするのですよね。前は、こういうものが横浜でモデル的なんだという大きなデザインが出てきて、それで市民が、ここは本当にいいところだ、だから異国情緒があるとか、港町がいいと気付いた。それには都市デザイン室が主導してきた過去がある。一方でこれからは、みんながこういうことをやるので、こういうことを考えられるのではないかということ提案している感じがするのですよね。でも、都市デザインビジョンのほうは、すべての都市づくりは都市デザインが基本なのだという、すごく大きなことを言おうとしている気がするのです。だからそこははっきりと違うと。これは行政計画で、

これを参照しないとイケないのならば、さっき国吉さんが言ったみたいに、主張の柱が出ているのが普通だと思うのですが、あまり書いていないわけではないですよ。つまり、メインの軸をこう通しますとか、とにかく港に行くルートが大事だからそこを中心的にやりますとかいうのは、優先順位が先に来るのでわかるけれども、それとは違うような気がするのです。つまりそれぞれの郊外に住んでいる人も、その人たちがここは大事だよなと思ったりするような手がかりみたいなもののような気がするのですが、違いますか。

○国吉委員 景観というのは表面的なことになりがちだけど、大きな骨格としての都市デザインから細かいところの都市デザインまであるし、公共施設からプライベートの施設まであるので統合しながらまちの演出を図っていこうというスタンスがあったわけです。それは、先ほど西村先生がおっしゃったような横浜市のスタンスとして打ち出してもいいのかなと思います。7つの目標とか掲げたりもしましたけれども。基本的には行政はこのようにとらえているけれども、こういう素材を生かしながらみんなでそれぞれの地域の特性を育てていきたいと思います感じで位置づけるとすみ分けはできるかなと思います。

○中津委員 僕も都市デザインビジョンのときにそういう説明だったと思いました。都市デザインビジョンは、横浜市のデザインに関してのリーディングシティとしてこういう教科書をつくって全部の自治体に配るようなイメージで僕はとらえていたのです。景観ビジョンはそれをもう少し地域のプラクティカルなものにあてがったらこうなりますみたいなものだと思っていました。

○西村部会長 それでいいのではないかと思います。そうすると多少すみ分けが見えますよね。

○中津委員 わかりやすいですよ。

○西村部会長 一言で説明できないと、市民の方がわからないのではないのでしょうか。

○綱河書記 大変参考になる意見、ありがとうございます。うまいこと整理をしていきたいと思うのですが、どうしても第3章のところで行政としての取組や行政的な位置づけをちゃんとつくっておきたいと思っています。一方で、つくった後すぐ棚にしまわれてしまうことを危惧しているのも、実用性のある実践編を大きくつくっております。最終的には西村先生、中津先生に整理していただいたような分け方でよろしいのかなと思います。

○西村部会長 役所向きに考えると3章が大事で。それはそれでいいですよ。

○綱河書記 その考えで説明してしまい、混乱させてしまい申しわけありません。整理して、この中でもどこかで表現をしておきたいと思います。

○国吉委員 両方は違いを説明するのではなくて、パラレルに重なって効果を発揮するように説明しておいたほうが、それぞれが生きてくると思います。

○鈴木委員 景観ビジョンは市民向けに書かれたものだろうなという印象を受けました。市民が例えば空き家問題とかでリノベなどをしていったりするときに、市民がどんなところからやっていったらいいのかわからないときに役立つように、横浜市は市民と一緒にこういうふうにやっていきますというのがはっきりないと、どこに相談していてもわからない。例えば、お年寄りがいて行政がかかわろうとしても、自分たちでうまくやっているのだから来なくてくれという感じでも、通っていくとだんだん困っていることをおっしゃる。先ほど佐々木先生が言った関心がない方への対策については本当にそのとおりで、自分の身近なところで何かあると、景観とかにもだんだんと皆さん関心を持っていく。市民というのは、意識が高い方ばかりでなくて、自分が住む身近な町がよくなるというような発想もあるので、そういう市民のためにはよく書かれているのではないかと思います。だからそこははっきりと、ほかの先生方もおっしゃっているようにすみ分けをしないと本当に混乱してしまう。どれを先に読めばいいのかわかりにくいのではないのでしょうか。

○加藤委員 私は、この報告書はすべて市民向けに構成し直したほうがいいと思うのです。鈴木委員はわかりやすいとおっしゃったのですが、私はわかりにくいと思っています。人の営みとか、街路風景などの写真もたくさんあってわかりやすいとは思ったのですが、この写真の集め方ですね。これをつくるときにもう少し考えるべきだったと思うのです。写真も、市民の目線でつくった写真を全部集めてそれを分類してみるとか、それからパターンランゲージ的に整理してみるとか、そういうプロセスがあってこれがあつたらよかったなと思います。これは過去の話になるので何ともいえませんが、そうすることの中でこのビジョンというのが生きてくると思うのです。しかし、今からは無理なので、これをむしろ地域の人たちに使ってもらえるテキストのようなものにしていくというのが重要なのではないかと思います。この実践編というものもよく見ると、わかるのですが、多分もう少し具体的に書き込んでいただいたほうが使いやすいと思います。この冊子自身もデザインを意識し過ぎて中身が見えないのです。素人から見ると「ああ、きれいだな」と言って終わってしまう。そういう感じがするのです。前のビジョンから10年たっているのです。横浜というと学生はもう都心部しか意識していません。ですから、それを何とかするためにはもっと動かないといけない

と思っております、私は以前からそういう意味では区役所に都市デザイン室的なものがあるべきだと申し上げています。

○西村部会長 写真というのは、例えば市民が撮った写真を集めてきて使うとか、そういうことがやれたらいいと。

○加藤委員 そういうことであればよかったなど。これは過去形になるのか今からできるのかわかりませんが、そういうことがあるべきだったのではないかと考えています。

○西村部会長 つまり、こういうをつくるのでその写真を下さいとか言って、それ全体をムーブメントにしていく、それはおもしろいですね。

○加藤委員 それをやらないと次の一步が踏み出せないと思うのです。

○西村部会長 なるほどね。それが載せられると思ったら結構頑張るかもしれませんね。

○国吉委員 同様に、審議会でやるのもいいのだけれども、例えばゾーニングが合っているかどうかとか我々が言うより、各区のそれこそ区政推進課やまちづくり担当を入れて各区の議論を開いたりすると、それをやったプロセスが各区の次の動きにつながるのですよね。加藤先生がおっしゃったようなプロセスを経てつくっていくと、次のステップに踏み出しやすいという感じがします。

○西村部会長 つくり方そのものを工夫すべきだと。どうしますかね。確かにそれは一つありかもしれないですね。

○佐々木委員 これから情報を出すにしてももう少しこちら側から攻めてもいいのではないかなど。例えばこのゾーニング一つにしても、これが景観づくりをするときのゾーニングの最終的なものですよとは出せないとは思いますが、例えば地形の断面図みたいなものとか、流域図とか、ハザードマップを重ねるとか、何か自分たちの住んでいる町の一番の景観のもとをつくっている大地の見え方みたいなものに対してはもう少し情報を出してあげるといいのではないのでしょうか。断面図は少し入ってはいるのですが、それはランドスケープ的な断面図というよりは町の表層を描くための断面図でしょう。景観の基本の基本は地形と水系と土地利用だと私は思っているのですが、ビジョンである以上、横浜市としてはその上に乗っかって景観づくりの骨組みをつくっていくというメッセージがあってもいいのではないのでしょうか。なぜなら、これだけの大都市に農地があり緑がありというのも、線引きを過去にきちんとやったことと地形がそうになっていたからだからです。その財産は景観づくりの基本として今後も継承していきますと、みんなで考えていきましょうと、結局何がいい景観か、何が横浜市にとって死守すべき今後の方針かということは何も言っていない。

○鈴木委員 この中に入っている断面図がイメージでしかとらえられないと。

○佐々木委員 だから見て、ああきれいだな、雰囲気があり、楽しそうだねというのはいいのだけど、もう一步攻めても。

○鈴木委員 佐々木先生がおっしゃるようなことだと、さっき加藤先生がおっしゃったようなそれぞれの区でいい景観とか何か、いろいろなイベントとかやるところがありますよね。地域振興課とか区政推進課とかがかかわって、そこの区のデザインをやっていかないと。今、私は港北区に住んでいるのですが、新横浜の都心部があって、大倉山には歴史的建造物があります。いいところをみんな知っているようだけど、関心がない人は同じ区に住んでいてもいらっしゃいます。身近なところにこんないい景観があるとか、そういうのを強く打ち出せばみんなが自然と巻き込まれていきますよね。だって身近なところなのだから。それをやるには市の都市デザイン室では無理で、区単位でそういうふうやっていかないととても対応できないと思うのです。区だって本当にいろいろあって、私も横浜市民長いですが、それでも泉区のほうを見に行かせていただいたときに全然何も知らなかった。横浜市民だって自分の区は知っていてもちょっと離れたところだともう全然わからない。地名一つとったってよくわからないのです。そうすると、区単位で対応していくような景観ビジョンの別冊子みたいなものが必要になってくるのかなと思いました。

○中津委員 多分、区のことよく知るためには、隣近所の区との違いとか、そういうことを知るの很重要でしょう。例えば水域のことを考えたら横浜市の外も含めて、全体を見ることと部分的に見ることをどのようにバランスをとるかというのを市民にわかってもらうというのは重要なことだし、これからどんどんやっていくべきことかなという気がします。

○鈴木委員 全体とリンクしていくというかね。

○佐々木委員 それについて、実践編のところで、資源マップをつくっていきましょうという取組をうたっているわけですね。柏市では全域にわたってとても詳細な資源マップをつくりました。また新宿区では全体が大きいから少しずつゾーンを分けて、そのゾーンごとに小さな冊子をつくるという取組をやっています。今後それをやっていくという事業を、それこそ行政の中で位置づけていくということは必要だと思うのです

が、それを今ここに盛り込むのも無理だと思います。横浜市全体の景観として大事な価値、つまり、地形だとか自然だとかもともと歴史的に形成されてきた市街地の位置とか古い道とかの上に成り立ってきている蓄積を大事にして景観を考えましょと、はっきり言ってもいいのではないかと思うのです。

○綱河書記 ありがとうございます。そこはなるべく私も書きたいと思っているところではあります。特定の場所とか特定の開発とかを指すような話になると難しいかもしれませんが、昔からの歴史とか土地の文脈とかを大事にしていく方向でもともと景観づくりは考えておりますので、どこまで具体的に書き込めるか、トライしてみたいと思います。

○佐々木委員 直接文言を書かないまでも、ああ、そうなんだという思いが見えるような、まさに地図ですよ。地形図とか。そういう材料ぐらいは提供してもいいのでは。

○中津委員 1ページぐらいで簡単にまとめることはできるし、ついでに言うと、地域的な広域をとらえるという考え方と、もう少し分野的にも広域にとらえて、景観のことを考えて議論することが防災や社会福祉的、教育的にも生きてくるというように、ほかの領域との位置づけというものも何かマップ化してもらったらいいなという気がします。地理的なマップと社会的なマップの中で景観ビジョンがどう位置づけられているかという絵。作文で書いてもだれも読まないですから、そういうのが欲しいなという気がしますね。

○西村部会長 普通だと、景観計画の中の地域別計画みたいなのところに細かいことも全部出てきてやるわけだけれども、それとこれとはちょっと違うものなのですよね。それは横浜市にはないのですよね。

○中津委員 これは後のほうにそれが入ってきているんだなと思って読んではいませぬ。

○西村部会長 だから資料集のところで、そこまで細かいことはこの段階ではできないけれども、おっしゃったような流域だとか地形だとかというのは図面で、そういうのが手がかりになって考えられるんだということは書けるような気もします。資料としても。

○加藤委員 平成18年の景観ビジョンですと、10ページに地域分類図というのがありますよね。佐々木先生がおっしゃったのは相当格差はあるかもしれませんが、何かこういうものって結構手がかりになりますよね。今回ここにも出てくるのですかね。

○西村部会長 それは一番最後のページですよ。地域ごとの景観の特徴の把握という。

○佐々木委員 これでは何もわからない。

○加藤委員 これに差しかえではちょっとがっかりだなということなのですけど。むしろ前の10ページのほうがいいかなと。

○綱河書記 以前の景観ビジョンの10ページの図をつくる時にも、横浜の多様な景観というのをどのように示そうかと、ある程度面的に分類するのに、ポイント的にさらに丸を重ねたりと、そのような形で表現しています。ただ、当時もその表現に大変苦慮した状況でした。今回やる時にはそこを細かくつくるよりは、この10年前のビジョンにはなかった断面図やスケッチを加えて、そこをあわせて見てもらうことで、自分の町のイメージができる。そういう使い方をするので、この図面そのものは今回6分類ということで前よりも大きくくりにしています。ここはまたご意見をいただければと思います。

○佐々木委員 それとはほかに、地形図とか水系図とかハザードマップとか、そういう地域のもとになっている、例えば歴史資源の分布図とかを入れていいのではないかと思うのです。それを全部レイヤリングして景観のゾーニングをしるといったらそれは無理ですが。

○綱河書記 資料編のところにそういったデータのものと、ほかのいろいろな資源マップとか、そういうものを入れ込む形はできるかと思ひます。

○中津委員 そういう地図を描くとき本当に思うのですが、少なくとも海岸線ぐらいは川崎のほうまで描くとか、横須賀のほうまで描くとか、もう少し隣近所の自治体まで描いたほうがいいのではないのでしょうか。

○西村部会長 この図面だと河川だけは入っていますが、平面的に見えるので、何かせめて海岸線とかだけでも入っていると大分違うかもしれませんね。

○綱河書記 町丁目も文字も入っているA3判のほうの図面でいくと、もとに道路や鉄道、そういったものも少し表現をしておりますので、ここから最終的にもう少し見せ方も含めて工夫してみたいと思います。

○国吉委員 「高密度既成市街地」という表現と、「郊外駅前周辺」という表現があって、「郊外駅前周辺」という言葉からは、駅を中心とした活動のニュアンスが見えてくるのですが、既成市街地は空間的なイメージや特性があまり見えない。以前の景観ビジョンは例えば3つの都心の丸があったりして具体的な場所のイメージが湧く。だからそういう地域のポテンシャルみたいなのも割と立体的に見えていたのです。高密度既成市街地というのは景観づくりでどうやって発展していくのかなと。既存の財産としてどうやっていくのかなと、その辺が一番難しい。

○中津委員 この6つの単語はすごく違和感があります。これを変えるとほかのところに行政上の齟齬が出てくることはないのですか。

○西村部会長 これは都市デザインビジョンの6つですよ。

○説明者 名称はデザインビジョンと合わせています。

ちょっと前の話に戻りますが、都市デザインビジョンは、基本は空間・営み・感性というコンセプトを定めて、景観ビジョンでアクションにつなげていくという、大きくその2つの性格を持たせたいと思っています。ですので、都市デザインビジョンで6つの地域に一回分けてみました。その地域でどういう取組をしようかというときにもリンクさせて考えていけるといいなと思って今の名前にしています。「高密度な既成市街地」というのは現行の景観ビジョンの言葉を引き継いでいるものです。「臨海部（工業地）」も中途半端な感じがしているのですが、これは都市計画マスタープランの言葉を選んだためです。都市デザインビジョンを策定したときに一番近そうなものをレイヤーとして抽出してきたためこのような名称設定になっています。

○西村部会長 でも、先ほどの国吉さんの話を受けるならば、高密度な既成市街地で何がやれるか、どういうビジョンが描けるのでしょうか。面積的にもすごく大きいし、かなり人口がいるところなのですが。

○綱河書記 その部分は、今日は現行の景観ビジョンを基に少し切り貼り状態で記載してありますので、これが完成のイメージではありません。この第2章のところは、それぞれの地域分類ごとに景観の特徴をまとめています。そういう場所でどんな景観の方向性を目指すのか、どんなことができるのか、何を大事にするのかということと今後さらに書き込んでいこうと思っています。確かにちょっと都心臨海部と比べると、書き込みの密度は薄くなる可能性がありますけれども、高密度な市街地ならではの地域資源を抽出しながら、なるべくその方向性を出していきたいと思っておりますので、そこのところは申しわけありませんが3月の審議会には、案をお見せしたいと思っております。

○西村部会長 恐らくすごく帯状なのだけど、やはり例示として出せる幾つかの個性がある。多分探せば出てくるが、面積的にも幅広い分類でビジョンに示されると、結局わかりにくい。名称は、ある時期までの市街地という意味ですよ。だからそこの人から、自分たちは何をすればいいのかと言われたときに、確かにある種の違いが出せる工夫が必要ですね。

○綱河書記 その辺は、古くから市街化されているところなのでかなり親密な空間であることと、坂道といった地形的な特徴を持つような場所でもありますので、うまくそれらの特徴を軸にし、地域の取組方針や景観づくりの方針などを書いていきたいと思っています。

○佐々木委員 私は今、人・まち・デザイン賞の審査もさせていただいていますが、ここ数年郊外からの応募がたくさん出てきています。まさにここで、みんなで注目して大事にしていきたいというようなものがエントリーされています。街角のすごく小さいものとか、あるいは住宅でも数軒、空間をもっとシェアして一緒に住んでいこうみたいな感じの住まい方とか、線路端に残っていた桜の並木がよく見えるように窓をつけたレストランとかが応募されていて受賞対象になっていっているのです。人・まち・デザイン賞などは、オープンにして評価しているものですから、具体例を出すことによって、文字で説明しづらいイメージもわかりやすくなるかなと思います。それこそ歴史については横浜が既に指定しているものとか、あるいはまち普請の事業でやられていることとか、過去のストックをせっかくだから活かされたらどうですか。

○綱河書記 ありがとうございます。そうですね、そういったものも具体的にイメージできるものとしてはいい事例になっていくかと思います。また、途中で加藤委員からご意見がありました全編市民用に編集し直したらということにつきましては、それぞれ対象者や全体の構成をわかりやすくという対応を、現在示している基本構成をベースに進めてまいりたいと思っております。特に、必要な全体の関係がわかるようなマップとか、都市デザインビジョンとの相乗効果、使い分けの部分を中心に対応してまいります。

○西村部会長 少なくとも1、2、4章は市民向けなので、そこがわかるようにイントロダクションに書いてあげればいいのですけどね。

○中津委員 もう少し具体的に希望を出しておくと、2ページは一番初めに見ると思うのですが、一番初めに見るところで「身近な景観づくりから始める」という、それがもう既にわからない。それで、28ページの実践編を見ると、例えば一番初めに「地域を知る」というのが1番に書いてありますよね。例えばその地域を知るという発見とか気づきみたいなものについて、この2ページの中にもう一つ項目が入ると、この「身近な景観づくりから始める」という意味がすごくわかりやすく具体的になると思うのです。「景観をつくる」からスタートしたら、市民は今何をつくれればいいかということになるけれども、「発見から始める」となっていたら見方が大分変わるかなという気がします。だからこの28ページをちょっと交通整理して、前のほうに持ってこれないかなという希望です。全体は変えないわけですから、ちょっとここに1～2行入れればわ

かりやすいかなという気がします。

○西村部会長 つまり、2ページは目標を書いているのだけど、手順が書かれていたほうがいいのではないかということですね。そういうプロセスみたいな。

○中津委員 発見するとか気づくということも目標の一つだし、それは地元として永遠のテーマだと。

○西村部会長 よく思うのですが、その気づくというのは、いろいろな場面でおもしろいと思うのです。例えば新しい建物ができて、いいデザインの建物ができたり、建て替わったりしたら、「あ、ここ、いいね」と思って、そこから気づきが始まる。ここでいう感性みたいなものから始まることもあるので、単に地域情報を知って、そこから徐々にまち歩きをするだけではない、いろいろなところで地域に対する関心が広がってくると思うのです。もう少し気づきというものを広くとらえると、今まで都市デザイン室がやってきたことも生きてくる。

○佐々木委員 気づかないものは見えていても景観ではないですからね。意識しないと、現象でしかない。見えているものは景観ではないから、景観として認識するということから入らないと。

○中津委員 景観というものに入っていき入り口のことですよね。景観の先の出口のところも本当は表現したほうが良いような気がしますけれども。

○佐々木委員 出口は欲しいですね。

○中津委員 出口については、これからの少子高齢化がどう変わっていくかとか、防災や、地球環境がどうなっていくかということも、この2ページの最後に入っていたら、景観の価値づけになっていくと思うのです。つまり、「景観って何？ファッションのことなの？」ではなくて、本当に現実的な生活を豊かにする、数字で測れるものによって変わっていく可能性があるから景観をやりたいとなっていく。だから入り口と出口を2行ずつ足すぐらいで、この2ページの意味が大分変わってくる気がします。

○綱河書記 2ページ目に示している4つというのは並列に示していて、入り口・出口みたいなそういう意識を持っておりませんでしたので検討してみたいと思います。

○中津委員 それが理念に含まれたほうがいいのではないかという話をしているのです。実務的なことは理念ではないと思って書いている気がしていて、理念的なことと実務的なことがつながっていることが後のほうに来てようやく理解できるではよくない。

○鈴木委員 アンケートで10年前と大分変わってきたことに、歴史を生かしたまちづくりに市民としてかかわってきたので大変気になった点があります。この上位3位が公園や緑地というのは、もう減っているのであってほしいという皆さんの願望だと思います。また、繁華街、商店街、都会的なオフィスビルなどの街並みに魅力を感じる方が増えているということは、反対に言うと歴史的建造物が減っているとか、高層ビル化しているというのが大きく関わっているのではないのでしょうか。10年前は異国情緒とか歴史的なものとかそういうのを割と重要視されていたと思うのですが、それがなくなってきたというのは、横浜の都市づくりにとって最初の核になるものなので、横浜の歴史的に非常に大切なものなので、これは私にはちょっとショックでした。若い人にとっては、みなとみらいでは遊ぶけれども、関内には行かない感じになりつつあるので、歴史的建造物とか異国情緒とかにちょっと力を入れるような形でビジョンや、ほかのことで都市デザイン室も取り組んでいただきたいと思います。

○中津委員 単純な質問ですけど、公園や緑地というのが、前は「身近な公園や緑地」と書いてあるのですが、今回「身近な」は消したのですね。これは重要な言葉なのだと思います。

○西村部会長 横浜公園が入るか入らないかということになってしまうわけですね。

○中津委員 今日の会議の趣旨と関係ないかもしれませんが、確認だけです。

○西村部会長 そろそろ収束気味ですが一言だけ。先ほどから出ている高密度既成市街地の分類の図面ですが、やはりここが単純化して、すごく巨大な部分が一色になっているために、問題をすごく単純化してとらえられてしまうリスクがあるので、工夫が必要だという気がします。それはさっきのように水系を入れるとか、鉄道を入れるとか、何か地形的なものが重なることで、同じ色だけど違う、よく見るとそれぞれに課題みたいなものが見えてくるようになっていたほうが良いのかなと思います。

○加藤委員 私が再構成と言ったのは目次の再構成の話ではなく中身のお話でした。それで、先ほど佐々木委員がおっしゃっていましたが、今まで横浜市で積み重ねたもの、地図などをきちんと資料として載せると非常に景観が解説しやすくなります。それから事例についても、具体的な事例があるほうが、どういうふうに取りかかれるかがわかりやすいと思うのです。ダイアグラムでも結構ですが、そういう今まで重ねてきた事例を入れてみることで相当厚みのあるものになるのではないかと思います。

○西村部会長 資料集をちゃんとつくっていただいて、その中でうまく使えるようなものは本編の中でも使

	<p>えれば、説得力がもっと増すということですね。</p> <p>○中津委員 何でこの写真なのかなと思うのがいっぱいあったりとか、もうちょっとプロに頼めないのかなと思ったりもしたのですが、ダミーなのですね、これは。</p> <p>○説明者 暫定です。第2章とかに差し込んでいく写真は選び直していきます。</p> <p>○西村部会長 お願いします。いいですか。いろいろ意見が出ましたが、一応ここまでということにします。</p> <p>(2) その他</p> <p>○西村部会長 次はその他ですが、何かその他ありますか。</p> <p>○綱河書記 特にございません。</p> <p>○西村部会長 では、今日の議論はここまでということで、あとの進行は事務局に確認をお願いしたいと思います。</p> <p>○綱河書記 本日も非常に多岐にわたりましたご意見をいただきましてありがとうございます。この場では意見の一つ一つをまた振り返る時間がございませんので、いただいたご意見はまた検討に反映させてまいりたいと思います。引き続きこの景観ビジョンにつきましては、3月の末に予定しております都市美対策審議会の本会のほうで議題に上げて審議をいただきたいと考えております。</p> <p>○西村部会長 本来なら本審議会の前にここで議論されるべきなのですが、タイミングがそうなくて申しわけないです。いずれにしてもその後でもう一回、6月ぐらいにここでも議論する予定ですよね。</p> <p>○綱河書記 そうです。基本的には3月の本会でご意見や確認をまたいただきつつ、それでもそこで終わると思っておりますので、その後の宿題についてはまた年度明けてからこの部会を開催して、そこでご意見をいただいて素案をまとめていきたいと考えております。議事のまとめは以上です。</p> <p>○西村部会長 ありがとうございます。次回の日程等について、事務局からご説明ください。</p> <p>○綱河書記 次回の政策検討部会につきましては、年度明けてからまた改めて、日程調整させていただきます。都市美対策審議会の本会について、次回は3月30日の午後にて調整しております。</p> <p>閉 会</p>
資 料	<p>資料1：横浜市景観ビジョンの改定について</p> <p>資料2：第12回横浜市都市美対策審議会政策検討部会議事録</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録については、会長が確認する。 ・次回開催の日程等は、別途個別に日程調整する。